

☆9日目（7月4日）：江差から小樽まで



行程地図（9日目）_記録 OLYMPUS TOUGH TG-6

本日、道内最終日。西の海岸線の岬めぐりをしながら小樽港を目指す。霧の中、国道 227・277 を北上。乙部町のシラフラ・くぐり岩の見学。シラフラは、くぐり岩辺りでも見れるので、駐車場にバイクを止めて海岸を降りた。海岸の崖がすべてきれいな地層が見えていて面白い。遠くに霧に霞んでいるが、シラフラも見れる。



写真 401. 小さな駐車スペース



写真 402. 急坂を下りていく



写真 403. 浸食された地層



写真 404. くぐり岩

この辺から国道 277 と 229 が重複する区間でわかりにくい、館の岬駐車場から先が土砂崩れで通行止めとなっている。駐車場から館の岬がよく見えた。国道を少し戻って、内陸側の迂回路となっている町道を走ると、すぐに国道に戻る事が出来た。



写真 405. 館の岬の手前で通行止め



写真 406. 迂回路で出た国道の反対側

ここは、「追分ソーランライン」と命名されている観光道路だが、朝曇りのせいか寂しい感じの道だ。



写真 407. 廃屋もちよこちよこ



写真 408. 追分ソーランライン

国道 277 と 229 が分かれて国道 229 になると、色いんな奇岩が次々と現れる。一番有名そうな親子熊岩でバイクをとめる。その先は、大成町で最西端を目指すために、道道 740 に入る。しばらく走ると、北海道最西端と言われている尾花岬が見えてくる。



写真 409. 親子熊岩駐車場



写真 410. 親子熊岩

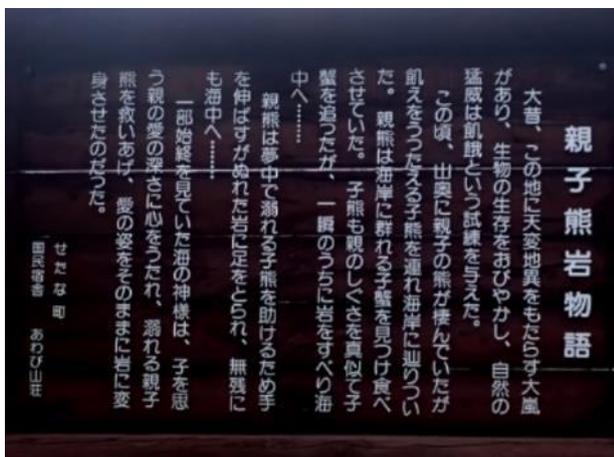


写真 411. 親子熊岩由来



写真 412. 尾花岬

北海道の最西端は、この尾花岬辺りなのだが、道道は岬を太田トンネルで通過してしまうので、記念碑がない。太田トンネルを抜けた所に車 1 台停められる位のスペースがある。でも、北海道東西南北端走破！



写真 413. 最西端の太田トンネル



写真 414. トンネル出口

訪問者は皆ここに停めて記念写真を撮るようである。先人が、防波堤に石で落書きをしているところからも容易に想像できた。突端マニアにとっては、是非駐車スペースと記念碑を建てて貰いたいものである。



写真 415. 北海道最西端



写真 416. 北海道最西端のらくがき

しばらく、また奇岩海岸地帯を走ると、せたな町で国道 229 に戻る。この辺は、「日本海追分ソーランライン」と観光道路名が変わっている。北上をすると茂津多岬が国道から少しせり出している。また熊が出そうな脇道を進むと、茂津多岬灯台にでる。誰も来そうにない秘境の灯台だが、海面からの塔頂までの高さが日本一の灯台だった。

灯台からは、天気が回復してきて青く光った海面が、はるか下に見えた。



写真 417. 茂津多岬への道

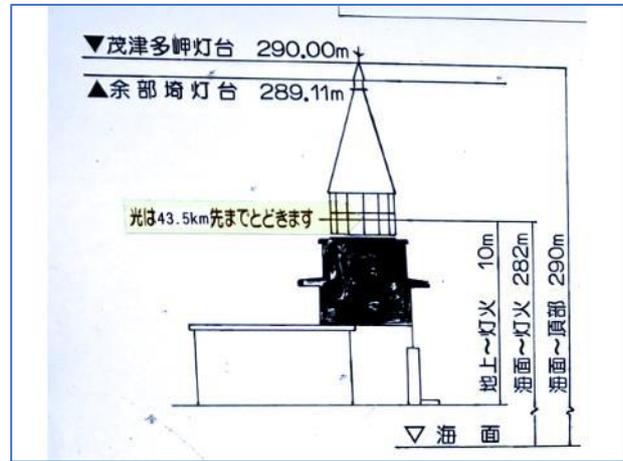


写真 418. 日本一の高さ



写真 419～422. 茂津多岬灯台



写真 423. 茂津多岬灯台からの眺め

国道に戻り日本海沿いを北上する。海上に何か構造物が生えていた。風車の土台でも造っているのだろうか？
「道の駅 よってけ！島牧」に着いたが、まだ開店前だったので、トイレだけ借りて先に進んだ。左手の岩山の上に本目岬灯台が見えた。もう少し行くと、今度は少し北に飛び出した弁慶岬がある。アイヌ語の「ペル・ケイ」という言葉が、訛って「ベンケイ」になったらしい。



写真 424. 国道 229 快走



写真 425. 謎の物体



写真 426. 道の駅 よってけ！島牧

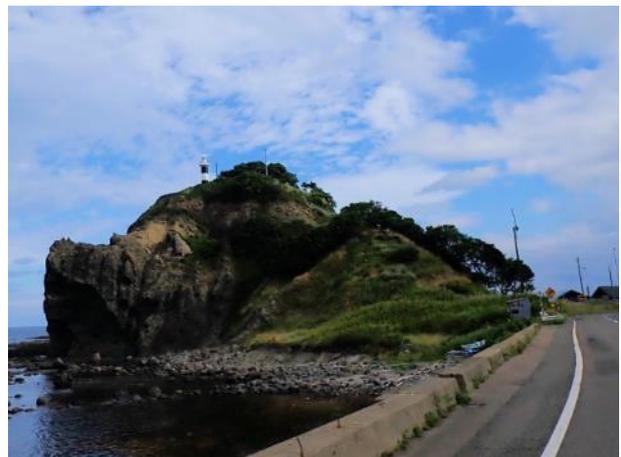


写真 427. 本目岬灯台



写真 428. 弁慶岬の弁慶像と灯台



写真 429. 整備された敷地



写真 430. 弁慶岬灯台



写真 431. 積丹半島が見える

引き続き海岸線を北上。海面に近い低い所や、防風の板塀が並ぶ地区もあった。



写真 432. 低いところを走る国道 229



写真 433. 防風の板塀

岩内町で国道 229 は国道 276 との合流で直角に曲がって、積丹半島に入っていく。岩内町になったら風景が突然都会になった。少し進むと今は稼働していない泊原発があった。岩内町が栄えている理由が分かった。



写真 434. きれいな岩内町



写真 435. 泊原発の記念館「とまりん館」

積丹半島の海岸線を快適に走っていくが、国道 229 は、神恵内でコの字に曲がっている。この辺の海も、引き続き奇岩だらけだが、どれもネーミングに苦労していて、岩影と名称が結びつかない物が多い。「キヌ熊岩」もその一つ。



写真 436. 国道 229 は、混み知らず



写真 437. 内陸は山深い積丹半島



写真 438. 神恵内の曲がり角



写真 439. キヌ熊岩

キヌ熊岩から少し進むと「道の駅 オスコイ！かもえない」に着く。ここも、かつては鯨漁で栄えた地域、「にしん街道」と呼ばれていたらしい。店内には、流木で作られた熊や鹿が飾られていた。目の前が広い海で、なんか最果て感がある道の駅だった。



写真 440. 道の駅 オスコイ! かもえない



写真 441. にしん街道の碑



写真 442. 流木で造られた熊



写真 443. 最果て感ある道の駅

この辺りは、トンネルが多く、バイザーの上げ下げが忙しい。海と崖が織りなすきれいな風景に感動した。遠くに神威岩らしき物が見えてきた。



写真 444. トンネルが多い道



写真 445. 崖も面白い形



写真 446. 遠く神威岩が見える



写真 447. 神威岬の駐車場が見えてきた

遂に神威岬に到着。ここは、駐車場から、かつての「女人禁制」エリアの岬の先端まで、延々と尾根道を歩いて行く。先端には、神威岬灯台が有る。歩くのは大変だが絶景なので行く価値のある岬である。風が強かったので、お土産屋の中にゆるキャラ「うにどん」が隠れていた。



写真 448. 神威岬駐車場



写真 449. 遊歩道案内板



写真 450. 女人禁制の地



写真 451. 往復の尾根道



写真 452. 灯台が見えてきた



写真 453. 神威岬灯台



写真 454. 神威岩



写真 455. ゆるキャラ「うにどん」

神威岬から少し国道 229 で海岸線を走り、野塚から道道 913 に入り積丹岬側の海岸線を走って小樽港に向かった。途中の西河トンネルは海側に旧道のトンネルが塞がれていて面白かった。



写真 456. 神威岬から海に向かって下る



写真 457. 名も無い奇岩が沢山出没



写真 458. 積丹岬が見える



写真 459. 新旧の西河トンネル

余市、小樽は、いろいろな倉庫が有って面白い。小樽港着、帰りのフェリーが待っていた。



写真 460. 古い倉庫が面白い



写真 461. 小樽港で待つ「あざれあ」号

フェリー出航時刻まで、小樽市内で時間つぶし。久しぶりに来た商店街もだいぶ変わった気がする。スヌーピーのお店なんかも前はなかった。今回の旅行で、ここがアジア系観光客が一番多かった。観光地値段で高い「おまかせ海鮮丼」2,940 円を食べたが、味や鮮度は良い方だった。途中国道沿いの店ではウニ丼が 3,500~5,000 円もしたから安い方である。

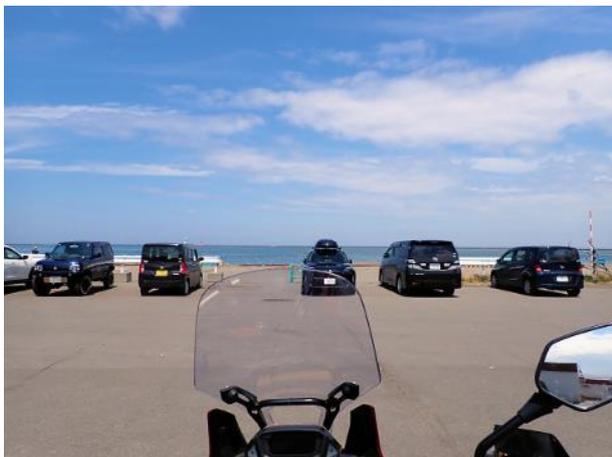


写真 462. 波止場にバイクを停める



写真 463. 久しぶりに来た小樽の街



写真 464. おまかせ海鮮丼



写真 465. スヌーピーショップ

夕飯とおつまみなどをコンビニ買って、波止場に戻り乗船準備。乗船後すぐに一番風呂を頂く。程なく出港、さっき寄ってきた神威岬が見えた。しばらくして、デッキで一杯やりながら夕飯。



写真 466. 波止場に戻る



写真 467. いよいよ小樽港を出港



写真 468. 神威岬が見える



写真 469. 夕飯はコンビニ弁当

夜、船のステージでは、「k o u」と言うかなり年配の歌手のレトロソングの弾き語りコンサートがあった。



写真 470～473. 船上スナップ

北海道を出る時点で、3,177 キロ走ってきた。後は、新潟港から自宅までを残すのみ。



写真 474. ODO=3,177.3 キロ